

アドバイザー派遣事業実施レポート

○研究団体：鳥取県東部中学校英語研究会

○実施期日：平成27年7月7日 及び 平成27年11月13日

○実施場所：八頭中学校（7月）、 国府中学校（11月）

○アドバイザーの所属・氏名：立命館大学 山岡憲史教授

○指導案の研究の中での位置づけ

東部中英研は平成26年から「実践的運用能力の育成 ～四技能を統合した指導の工夫～」という研究テーマのもとに4グループに分かれて研究を進めている。その中で八頭中、国府中を含むDグループは「学習意欲を高めるための視覚教材の工夫」というテーマで取り組んでいる。研究の柱になっているのはパワーポイントを用いた視覚教材の利用で、文法理解、パターンプラクティス、既習の学習内容を複合的に用いた表現活動などに効果的な教材の開発に努めている。今年度2回実施した研究会ではそのいずれもが視覚教材開発チームの学校が担当した。指導案の中で研究に関わる部分と言えば、八頭中であれば「新文法導入の際に用いたパワーポイント」であり、国府中であれば「新文法導入とその後のパターンプラクティス、更にその文法を用いた活動におけるパワーポイントの利用」である。

○振り返り

いずれの授業においても文構造の説明の際にパワーポイントの特徴であるアニメーションを効果的に使い、分かりやすい指導となっていた。生徒にとって親しみのある絵や写真を取り入れることで、あきない授業になった。また板書の時間をとらないので説明が短時間で終わり、浮いた時間を表現活動やライティングの練習時間に充てることができ、1単位時間の活動をバラエティーに富んだ興味深いものにしていった。ただ同時に問題点もあり、パワーポイントの弱点は画面が次々に消えていくことである。その時間に学んだ重要ポイントが画面に残らないので、板書と併用するなどの工夫が必要であるとの指摘があった。

山岡先生からは、「八頭中での授業はよくマネジメントされていて、統制された賑やかさのあるよい授業である。せっかくパワーポイントを使うのだからもっとパターンプラクティスを増やし、習得させてから表現活動を取り入れるべき。表現活動には場面や感情が伴わず。表情でそれを表すよう生徒に指導して欲しい。」とのご指導をいただいた。また国府中では「パワーポイントを用いテンポのよいプラクティスになっている。表現活動ではシチュエーションを与えオーセンティシティーのある活動にすることで使うべき場面で使える英語が身につく。生徒同士の関わりのある言語活動で、生徒が自己の有用感を感じることで工夫がしてあった。」との指摘をいただいた。

28年度は県の研究発表年度である。12月1日の大会に向け、更に研究を深め、視覚教材の工夫はもとより四技能統合の研究を進め生徒に実践的運用能力を付けられる指導法の工夫を推し進めていきたいと考える。

第1学年 英語科学習指導案

1. 単元名 New Horizon 1 Unit4 楽しい昼休み

2. 単元設定の理由

本題材は、学校の昼休憩にケビンとサクラが会話をするという場面設定で構成されている。日本伝統の折り紙や世界の食文化をテーマにした会話が展開され、生徒にとっては親しみやすく、興味を持って取り組める題材であると考えられる。また、天候のたずねかたや好きな教科の聴き方、各教科に対してどう思っているかなど、実生活でも使う頻度の高い表現を学べる単元である。

本学級は、間違いをおそれずに自分の考えを発表できる生徒が多く、明るい雰囲気のもとで話し合いや、班活動に積極的に参加し考えを深めることができる。ペアや班などの学習形態を工夫し、インタラクションのある活動を仕組みながら学習に取り組ませたい。同時に、楽しさを求める余り場の雰囲気を崩しすぎてしまう生徒がでないよう配慮しながら指導したい。

生徒は、Unit1.2でBe動詞と一般動詞の疑問文の構造を学んでいる。この単元ではその構造の前にWhatという疑問詞を付けるだけなので抵抗なく理解できるものと思われる。Unit1.2に引き続いて疑問文の構造の違いを意識させながら定着を図りたい。

3. 単元目標

- (1) What is～?を用いた文の構造を理解する。(言語文化についての知識・理解)
- (2) What do you～?を用いた文の構造を理解する。(言語文化についての知識・理解)
- (3) 形容詞が単独で補語になる文の構造を理解する。(言語文化についての知識・理解)
- (3) Whatを用いた簡単な会話ができるようになる。(外国語表現の能力)
- (4) 積極的にコミュニケーション活動に参加できる。(コミュニケーションへの関心意欲態度)

4. 指導計画(6時間)

Part 1 (2時間)

- ・疑問詞What is～?の用法と答え方を学ぶ。(1時間)
- ・教科書の本文を読み、内容を理解する。練習問題(1時間)

Part 2 (2時間)

- ・形容詞が補語となる文の構造を理解する。(1時間)
- ・教科書の本文を読み、内容を理解する。練習問題(1時間)

Part 3 (2時間)

- ・What do you～?の用法と答え方を学ぶ。(1時間) **本時**
- ・教科書本文を読み、内容を理解する。練習問題に取り組む
世界の食文化について知る。(1時間)

5. 本時の学習

(1)目標

- ① What do you～?の用法を知り、これを用いた文書が書ける。
(言語文化についての知識・理解)
- ② What do you～?を用いて簡単な表現活動に意欲的に参加する。
(コミュニケーションへの関心意欲態度)

(2)準備

チャトルチャット、コンピュータ、プロジェクター、模造紙、ワークシート

(3) 学習過程

学習活動	学習内容	(表現力の育成)	評価 (・) ・留意点 (○)
1. あいさつ 2. シャトル	<ul style="list-style-type: none"> 英語であいさつをする。 シャトルチャットを用いて簡単な英文のやりとりを練習する。 	ペアーで楽しんで会話に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○明るくあいさつし雰囲気を盛り上げる。 ○ペアーのいない生徒とスキットに取り組む。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> What do you eat for breakfast? </div>			
3. 新文法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> A L TとJTEの英語でのやりとりを聴きながら、新文法の用法を知る。 パターンプラクティスを通してWhat ○○ do you～?の用法に慣れる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○楽しい雰囲気でやりとりする。 ○パワーポイントを用いて視覚に訴えながら分かりやすく導入する。 ○次の活動につなげられるよう発音練習を繰り返す
4. Raymond Please Come here	<ul style="list-style-type: none"> 新文法を用いた疑問文を班で作成し教員と会話を行う。 	新文法を用いた班活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○全員に発表チャンスがあるよう配慮する。
5. インタビュー	<ul style="list-style-type: none"> クラスメイトの好きな食べ物やスポーツをたずねる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなことを伝え、相手も好きかどうかたずねる。 	<ul style="list-style-type: none"> What○○ do you～?を用いた表現活動に意欲的に参加する 【コミュニケーションへの関心意欲態度】 (観察)
6. 練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 活動後に簡単な問題に答え教師の点検を受ける。 		<ul style="list-style-type: none"> Whatを用いた文章が書ける。【言語文化についての知識理解】 (ワークシート)
7. 本時のまとめをする。 8. あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> What do you～?の用法を確認し、次時の予定を伝える。 		

<授業の流れ> 7 / 7

- 1 あいさつ
 - ・ Good afternoon students. Good afternoon Mr. Nakamura & Mr. Raymond
- 2 シャトルチャット/宿題点検 (3分)
 - ・ Let's start shuttle. Make pairs with your side student. You have two minutes. Stand up and start.
3. シャトルを用いて生徒と会話 (2分)
- 3 チャットの Writing (1分)
- 4 新文法導入 (15分) 【累 21分】
 - ・ 「今日のゴール」を説明
 - ・ パワーポイントを用い、文法の導入をオーラルでおこなう
その後、文法の構造について説明
その後 パターンプラクティス 最後にまとめ
- 5 活動 (9分) 【累 30分】
 - ・ 活動の説明 Raymond Please Come Here!
 - ② 表に書かれた表現を教師に言わせられる英文をつくる
 - ③ 出来たら教師を呼ぶ
 - ④ 呼ばれた教師はその班の一人を指名。指名された生徒が英文を言う。(5秒間)
- 6 インタビュー活動 (6分) 【累 35】
- 7 writing (8分) 【累 43分】
 - ・ 簡単な練習問題を解き、教師に見せる。 終わった生徒はワークに取り組む
- 8 まとめと次時の連絡

第1学年 英語科学習指導案

2015年11月13日 (金) 5限

1. 単元名 Unit8 ナンシーに会いに New Horizon English Course 1 (東京書籍)

2. 単元について

本単元はさくら、一郎、ベッキー、ケビンが冬休みに旅行に行くという設定である。到着した飛行機の中であわてるケビンとさくらの対話、手荷物受取所でのベッキーとケビンの対話、空港ロビーでのベッキーと一郎の対話とナンシーとの出会いと続く。身近な日常から一歩外に出る場面設定としての海外旅行のストーリーである。具体的な場面を通して、ふさわしい文法事項を学んでいく。

本単元Part1ではWhere...?の文とその応答の形・意味・用法を理解し、物がどこにあるかたずねたり、それに答えたりすることができるようにさせたい。Part2ではWhose...?の文とその応答の形・意味・用法を理解し、物の持ち主についてたずねたり、それに答えたりすることができるようにさせたい。Part3では人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解し、人についてたずねたり、それについて答えたりすることができるようにさせたい。

本学級の生徒（男子16名、女子12名、計28名）は、学習中に積極的に発表しようとするなど、英語学習に意欲的に取り組んでいる生徒がいる一方、家庭学習を継続して行く習慣が定着していないため、基本的な事項を理解できていない生徒も少なくない。理解中心の学習よりも表現活動に意欲的に取り組む生徒が多い。そのため、生徒の学習意欲を高めるために、視聴覚教材を利用し、表現活動を中心とした言語活動をバランスよく行っていくことが今後の課題である。

本単元の指導に当たっては、文法事項の習得だけではなく、それが使えることに重点を置きたい。そのため文法事項を理解し、それを使って友達とやりとりするなどの表現活動を行う。また、学習意欲を高めたり、説明をわかりやすくするため、絵やパワーポイントなどの視聴覚教材を使用する。英語での表現活動を通して文法事項を運用する力をつけたい。また英語で友だちとコミュニケーションをすることの楽しさも体験させたい。

3. 単元の目標

- 本文の内容を理解することができる。【理解】
- Where...?、Whose...?の文の応答と人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解し、表現できる。
【知識・表現】
- 言語活動に積極的に参加し、友だちとコミュニケーションをしようとしている。【関心・意欲・態度】

4. 指導と評価の計画 (全7時間)

時数	学 習 内 容	評 価				評価方法	
		コ	表	理	知		
第1時 第2時 (本時) 第3時	○Unit8-1の文法事項や表現を学習する。 ○Unit8-1の文法事項を使い活動をする。 ○Unit8-1の単語、熟語、本文の内容を理解する。		○	○	○	Where~?の文とその応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。 本文の内容について、正しく読み取ったり聞き取ったりすることができる。	ワークシート 活動観察 グループ活動観察
第4時 第5時	○Unit8-2の文法や表現を学習する。 ○ Unit8-2の単語、熟語、本文の内容を理解する。		○	○	○	Whose~?の文とその応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。 本文の内容について、正しく読み取ったり聞き取ったりすることができる。	ワークシート 活動観察 グループ活動観察
第6時 第7時	○Unit8-3の文法や表現を学習する。 ○Unit8-3の単語、熟語、本文の内容を理解する。		○	○	○	人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解し、表現できる。 本文の内容について、正しく読み取ったり聞き取ったりすることができる。	ワークシート 活動観察 グループ活動観察

5. 本時の学習

(1)本時目標

○物がどこにあるかをたずねたり、それに答えたりすることができる。【表現】

(2)本時の評価規準

十分に満足できると判断される状況	おおむね満足できると判断される状況	努力を要する生徒への手立て
言語活動に意欲的に参加し、Where~?の文とその応答をいろいろな場面で正確に自然な速さで言うことができる。	Where~?の文とその応答を少々時間はかかり、文法的な間違いも多少あるが、伝えようとしている。	言語活動の時、質問の仕方や応答時に使う前置詞の意味を教え、活動を促す。

6. 学習過程(2時間目/全7時間)

学 習 活 動	○主な発問 ・予想される生徒の反応	・留意点 ◎評価【観点】※手立て
<p>1. Greeting</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてと活動内容を確認する。 <p>2. Warming up</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTの質問を聞き、答える。 <p>3. Where~?の文とその応答の復習をする。</p> <p>4. 部屋に置いてある物の場所を当てる活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで質問、応答し、物をふさわしい位置に置き、絵を完成させる。 ・班で、質問、応答し、物をふさわしい位置に置き、絵を完成させる。 ・完成した絵を見て、どこに何があるかワークシートに文を書く。 <p>5. 本時の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日付や曜日、時刻などを答える。 <p>○ジャンヌ先生の質問を聞き、答えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Yes, you are. ・No, you aren't. etc. <p>○Where is a cat?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・It's on the house. ・It's in the house. etc. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎ペアで質問と応答をし、物をふさわしい場所に置き、絵を完成させよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・Where is a bag? ・It's on the desk. etc. 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習のめあてを掲示して積極的に学習活動が進められるようにする。 ・ワークシートの情報を見て質問に答えさせる。 ・できるだけ多くの生徒に発表させる。 ・何度も言わせ、前置詞の使い方をおぼえさせる。 <p>◎伝えたいことを聞き手によく伝わるように正確に言うことができる。【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵が完成したらペアで絵の確認をする。 ・順番に質問、応答をさせる。 ・文が書けたら教師が点検する。 ・書き方がわからないときは班の友だちに聞く。 ・活動の様子などの評価を伝える。